

平成22年 9月分

大芝出張所管内

福間 さん

観察月日

連絡事項等

9月6日

午前11時半ごろ、自宅裏山の松笠山(374.6[㍓])頂上付近で山火が発生した。消防車のサイレンに続いてヘリコプターが我が家の頭上を飛び交い始め、異常に気付いた。すぐに外に飛び出して空を見上げると、水の入った大きな袋をぶら下げたヘリコプターが山頂目指して飛んでいた。運んでいた水は10.2^{キロ}ポイント付近の太田川のものだった。

カメラを提げて水をくみ上げていた現場付近に駆け付けたが、既に放水作業を完了し、河川敷の駐車場を駐機場にして消防隊員を乗せているところだった。間もなく駐機場をはなれ、松笠山の山頂付近を旋回したあと、市内中心部に飛び去って行った。

山火事は、山頂付近の約140平方[㍓]と西側の約200[㍓]離れた山の傾面約70平方[㍓]の2か所の雑木を焼いた。この火事で消防車14台とヘリコプター一機が消火に当たった、と翌日の新聞報道で詳しい状況を知った。

ヘリコプターが火災現場を何往復したかは知らないが、陸路からの消火の困難さや乾燥下の気象状況を考えれば、多量の水をピストン輸送するヘリコプターのスピーディーな行動を頼もしく思った。消防署に聞きそびれたが、大事に至らなかったのは、このヘリコプターの活躍が大きな要因だったのではないかと私は思いたい。

太田川が市民生活に寄与するまた違った側面を見た思いでもある。豊富な川の水、ヘリコプターが容易に駐機できる河川敷の広いスペース。消火活動の現場をみて、有事の際の川の活用の幅広さを改めて知った。

【写真説明】

山火事で消火活動を続けたあと、河川敷の駐機場から離陸しようとする広島市消防局のヘリコプター。



9月8日

小雨ぱらつく夕方、10^{キロ}ポイントから上流2^{キロ}を散策した。昨夜来の雨で、河川敷は水分を含んでいた。猛暑が依然として続いていただけに、わずかな水気で生氣を取り戻したようで、草特有のにおいが漂ってきた。私まで心地よさを感じた。

9^キポイントから15^キポイントかけての堤防斜面や河川敷はグラウンド施設が点在するほか雑草が生い茂るのが毎シーズン見る風景である。それが、今年は違った。晴天続きと記録的な猛暑は雑草たちの生育をとめてしまい、周囲の景色は黄色く染まっている。

本来なら、秋の深まりと同時に伸びきったススキなど雑草は大型の草刈り機が登場して刈取り、河川敷のあちこちに丸められて結束された雑草が置かれるのだが、今年はススキなどは背すら伸びておらず、刈取り自体ができないのではないだろうか心配している。案の上、数日たって現場付近を歩いていて、一部分だが、刈られた雑草が堤防下の河川敷へ無造作に積み上げられていた。あきらかに、今までの雑草の収集方法とは違ったものだった。

枯れてしまった雑草は牧草としての役に立たなくなってしまったのか。ここにも、今年の猛暑が持たらしめた異状現象の一旦なのだろうか。

9月15日

曇り時々晴れ。夕方前、やっと訪れた秋の季節感を肌を感じながら9^キポイントから11.4^キポイントまでを散策した。今回は、河川敷からさらに水辺に接する付近を歩いてみた。河原石に足をとられながら護岸を降り、水辺に近づくと、また違った情景が目飛び込んできた。

特に10^キポイント付近では、水辺に近づくにはさらに30^リほど雑木などをかき分けで進まなくてはならない。まさに探検気分である。このあたりに来ると7月豪雨の爪痕が生々しい。流木の枝や生い茂る林の幹にへばりつくビニール、布切れなどが数え切れないほどあった。車のタイヤ、ビニール製の青色シートなど大型ごみも散見できた。

さらに驚いたのは、開けた目の前に小島が出現していたことだ。既に、小島との間には流水はなく、よどんだ水たまりになっており、ミズスマシが群れをなして水面を張っていた。水たまりを避けながら小島に行った。きれいな川砂が層をなし、その上に林が形成されていた。

小島の大きさは長さ3~40^リ、最大幅10^リほどだろうか。年数を重ね砂を浸食し水路を広げて島を造ってしまったのだろうか。不安を感じて小島への探検は自重してしまった。よどんだ水たまりに群れるミズスマシの生き物が印象的だった。

また、そばには竹林、巨木が森を形成。さらに、その上をシダ類が覆うなど踏み入れようとする人を拒絶しているかのようだ。

少し上流に行った水辺で、アユ釣りを楽しんでいた人に声をかけた。釣り人は、近くの安佐南区に住むTさん(60才)。定年を迎えたのを機に、アユ漁を本格化させたベテラン釣り師だが「大雨以降、この漁場はアユが消えたみたいに不漁つづき。今日も今のところ三匹をあげただけです。救いは三匹とも“尺アユ”(大物の意味)だったことです」と日焼けした顔が笑った。

ここの漁場は、アユの産卵場所といわれ、漁期は9月末までとなっている。「ころがし」という釣りが行われている。数日後、別の釣り人である釣り経験30年の同市安佐北区にすむKさんに会った際も「解禁された6月には2、300匹の釣果があったが、本当に引きがない。放流されたのが嘘ではないかと疑いたくなる」と首をかしげていた。

堤から見物させてもらうアユ釣り風景は実に絵になる。ひさし帽に大きな網を背中に差し、長い釣り竿をたれる。流れに身を抗す姿は頼もしさを感じる。ただ、釣果の薄い嘆きの声は、堤までは聞こえてはこなかった。

【写真説明①】

河川敷の水辺の探検で車のタイヤなどごみに出会った場所



【写真説明②】

砂が浸食されて出現したのか小島(右側)



【写真説明③】

夕暮れ時、アユ釣りを楽しむ人ら



管理第一課からの意見・感想等

9月のご報告ありがとうございます。
9月15日の報告でありました小島は写真1の場所と思われます。この場所は、河川巡視の目視阻害及び出水時に倒木する恐れがあるため、平成17年度より平成23年度の5ヶ年計画で伐採することとしています。
安全に注意しつつ、モニター活動をどうぞよろしくお願いいたします。

